

時代を読み解く

シリーズ 8

ミサイル発射は

「強要の手段」に

ロシアと異なり、北朝鮮は戦争をしていない。そのためが故に北朝鮮は、これから戦争が起こり得るといふ恐怖を振りまくことができ、それを強要(Coercion, Coercion)のために活用できる。

強要は暴力のオプションを保留していると信じさせ、従わねば実行されると脅迫することで成立するからである。

戦争をしてしまったロシアも、依然として事態をエスカレーションさせると、相手脅す余地はあるが、

自国の軍や同盟国が人々を脅かす力を持続し、関連付ける形で短距離弾道ミサイルを発射したが、これは韓国の国防当局による戦略の再確認に合わせた行動だった。

このように北朝鮮は、韓国の「先制」により核戦争の惨禍に見舞われるとの見方を広めた上で4月17日、金正恩総書記が参観する中、「戦術核運用の効果性」を高めるとしてロシアの

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

翌2日、元朝鮮人民軍参謀長の朴正天(박정천)は、中央委員会書記は、徐旭長官の立場を「核」保有国に對する「先制打撃」発言として、これを韓国軍部の「反共」と非難した。その上で朴正天は先制打撃があれば「ソウルの主要標的」と韓国軍を壊滅させると脅した。

このように北朝鮮は、韓国の「先制」により核戦争の惨禍に見舞われるとの見方を広めた上で4月17日、金正恩総書記が参観する中、「戦術核運用の効果性」を高めるとしてロシアの

北朝鮮による強要戦略の行方

平和が戦争に変わる恐怖ほどのインパクトはない。対北朝鮮は、長年にわたる戦争のイメージを振りまき続けたにもかかわらず、実行はしない。

それは必ずしも安心すべきことではない。「これから戦争が起きるかもしれない」との恐怖を与え、その脅しにより標的となる国々

危険に巻き込んでいくのが、反心もまた珍しくない。北朝鮮がミサイル発射で期待してきたのはそうした反応である。

韓国内で軍への懷疑強める企図

保守の尹錫悦が大統領選挙で勝利した後、2022年4月に北朝鮮は「戦術核」

先制攻撃に對し

「核使用」で脅迫

北朝鮮はそれ以前から戦術核取得の意思表示をしており、かつ戦術核は射程が短いため、韓国領域への使用を念頭にその取得が進められていたはずである。従って、徐旭長官の発言の故に北朝鮮が韓国への核攻撃

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

翌2日、元朝鮮人民軍参謀長の朴正天(박정천)は、中央委員会書記は、徐旭長官の立場を「核」保有国に對する「先制打撃」発言として、これを韓国軍部の「反共」と非難した。その上で朴正天は先制打撃があれば「ソウルの主要標的」と韓国軍を壊滅させると脅した。

このように北朝鮮は、韓国の「先制」により核戦争の惨禍に見舞われるとの見方を広めた上で4月17日、金正恩総書記が参観する中、「戦術核運用の効果性」を高めるとしてロシアの

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

今月の講師

わたなべ たけし 渡邊 武氏

地域研究部

アジア・アフリカ研究室主任研究官



1974(昭和49)年山形県生まれ、埼玉県育ち。東京都立大学法学部政治学科卒業、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。2002年から防衛研究所勤務。09年アメリカン大学国際サービス大学院修士課程修了。専門分野は朝鮮半島の政治と安全保障。最近の主な業績として、「文在寅政権の国防と政軍関係：政治的中立の喪失がもたらす反リアリズム」「二極化する地域における韓国国防：自主の機会とその変容」(日本国際問題研究所、21年、22年)、「強制外交における政治的企図：北朝鮮による文在寅政権への脅迫」『安全保障戦略研究』(21年11月)。

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

翌2日、元朝鮮人民軍参謀長の朴正天(박정천)は、中央委員会書記は、徐旭長官の立場を「核」保有国に對する「先制打撃」発言として、これを韓国軍部の「反共」と非難した。その上で朴正天は先制打撃があれば「ソウルの主要標的」と韓国軍を壊滅させると脅した。

このように北朝鮮は、韓国の「先制」により核戦争の惨禍に見舞われるとの見方を広めた上で4月17日、金正恩総書記が参観する中、「戦術核運用の効果性」を高めるとしてロシアの

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

翌2日、元朝鮮人民軍参謀長の朴正天(박정천)は、中央委員会書記は、徐旭長官の立場を「核」保有国に對する「先制打撃」発言として、これを韓国軍部の「反共」と非難した。その上で朴正天は先制打撃があれば「ソウルの主要標的」と韓国軍を壊滅させると脅した。

このように北朝鮮は、韓国の「先制」により核戦争の惨禍に見舞われるとの見方を広めた上で4月17日、金正恩総書記が参観する中、「戦術核運用の効果性」を高めるとしてロシアの

「先制攻撃」に對し、同月1日、韓国の徐旭国防部長官(当時)はミサイル戦略に関わる組織改編に際して、ミサイル発射の「兆候」が明白であれば「発射の原由と指揮・支援施設を精密打撃」できる能力と態勢を有していると表明していた。

翌2日、元朝鮮人民軍参謀長の朴正天(박정천)は、中央委員会書記は、徐旭長官の立場を「核」保有国に對する「先制打撃」発言として、これを韓国軍部の「反共」と非難した。その上で朴正天は先制打撃があれば「ソウルの主要標的」と韓国軍を壊滅させると脅した。